

7月です。

7月に入りました。

第2回定例会も閉会し、本来であれば東京オリンピックが開催され、室蘭市でも港まつりを筆頭に夏まつりが盛んに行われ、多くに市民の皆さんとお会いし様々なご意見を伺うことができる7月ですが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためすべてが中止となってしまいました。

定例会でも質疑の中心は新型コロナ対策となりましたが、緊急事態宣言が解除されたことに続き他都道府県への移動制限も解除されたといっても、未だに東京を中心に毎日新たな感染者が出ている状況です。北海道においても札幌や小樽において昼カラオケや老人ホームでの感染が拡大しています。今後も、「新しい生活様式」を実践し、感染拡大防止を主眼に置きながら経済活動を停滞させることが無いようにするという、非常に難しい状況となっています。

さて、室蘭市では、7月1日付で小規模ではありますが人事異動がありました。

今年度で4名の部長が退職することや本市の課題解決に向け必要部署に新たに次長職を配置したこと、また、市立病院の経営改善及び市内の総合病院の統合再編に向けた協議のため新たに市立病院内に経営企画室を設置し、地域医療を担当する健康推進課主幹を兼職させる2名を配置したことなどが主なものです。

課題が多い室蘭市では、職員一人ひとりが与えられた職務を果たすことは勿論のこと、将来にわたってどうすれば本市が発展していくのかを常に考え、そのために課題を共有し、解決策を見出し、実行に移す。また、その事業を検証し次の実行に移していく。このようなことが求められます。

もちろんその先頭に立つのが市長ということになりますが、部長や次長など、いわゆる幹部と言われる職員に求められるものが大きくなってきていますので、期待しています。

議会としても、多くの市民の意見を聞き、取り入れながら市の施策、方向性が本市にとって最善なのかチェックするとともに、更なる施策を提言することが求められています。

みんなの力でこの難局を乗り越え、with コロナ、アフターコロナの時代を見据え、室蘭市をさらに元気にするために今後も頑張ってまいります。